

塵劫記

下卷



藝文記下巻三目録



方せ二ちの入日を町中へようひり事
方並立木のををほりうる
方並町つりれす。
方共詠とくとさんんのす
方並ひよく一もひの事
方并日本國中の男女衆の事
方並くすさんんのす
方并金銀千枚と開立ほつりれす
方并一まぬ一たんめのてんとものせす

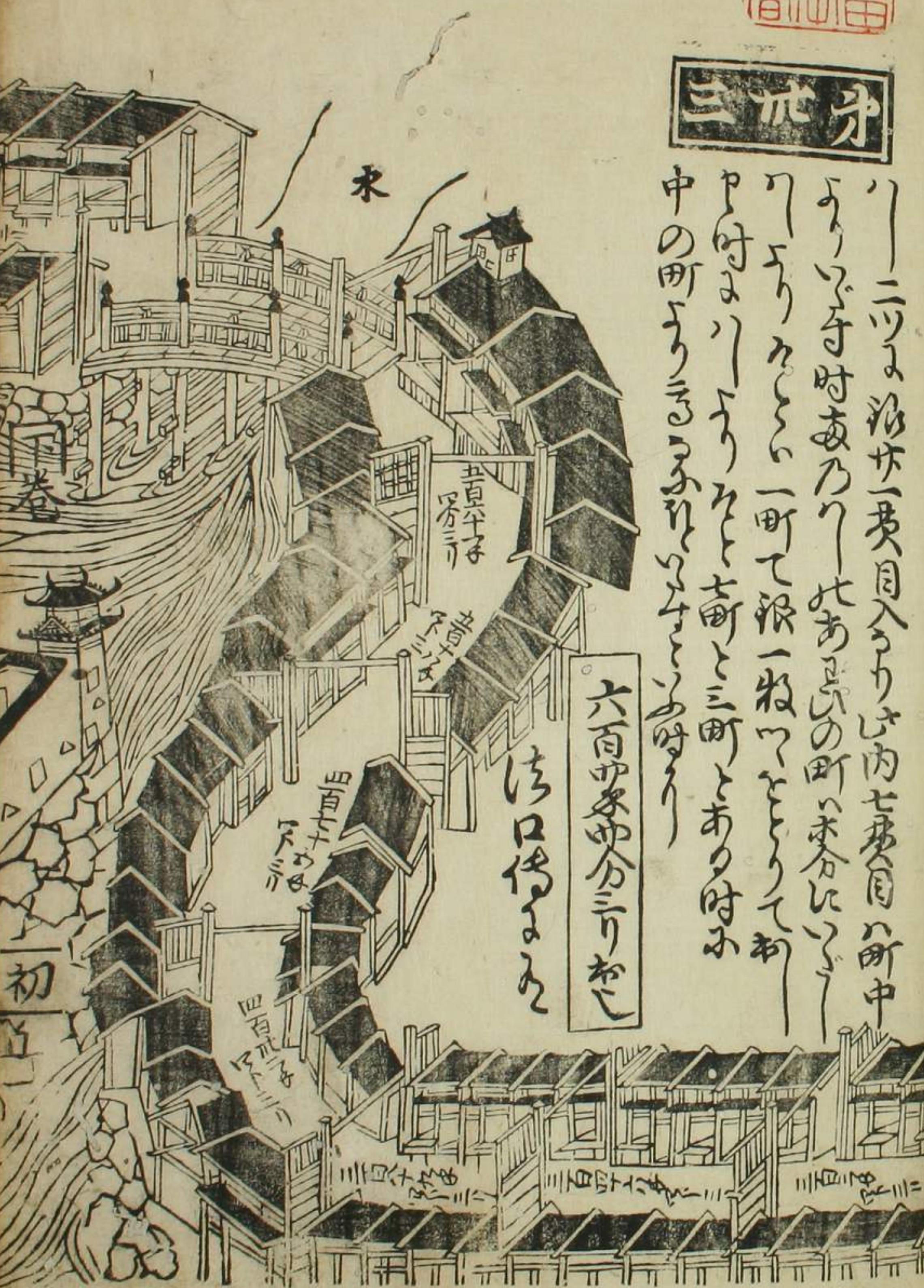


方空 あらうこけの事
方空 百五けんりより
方空 菜仰さんとりの事
森五 六里をやへても三モゼ
森七 開平法の事
森八 開平田法の事
森九 開立法の事



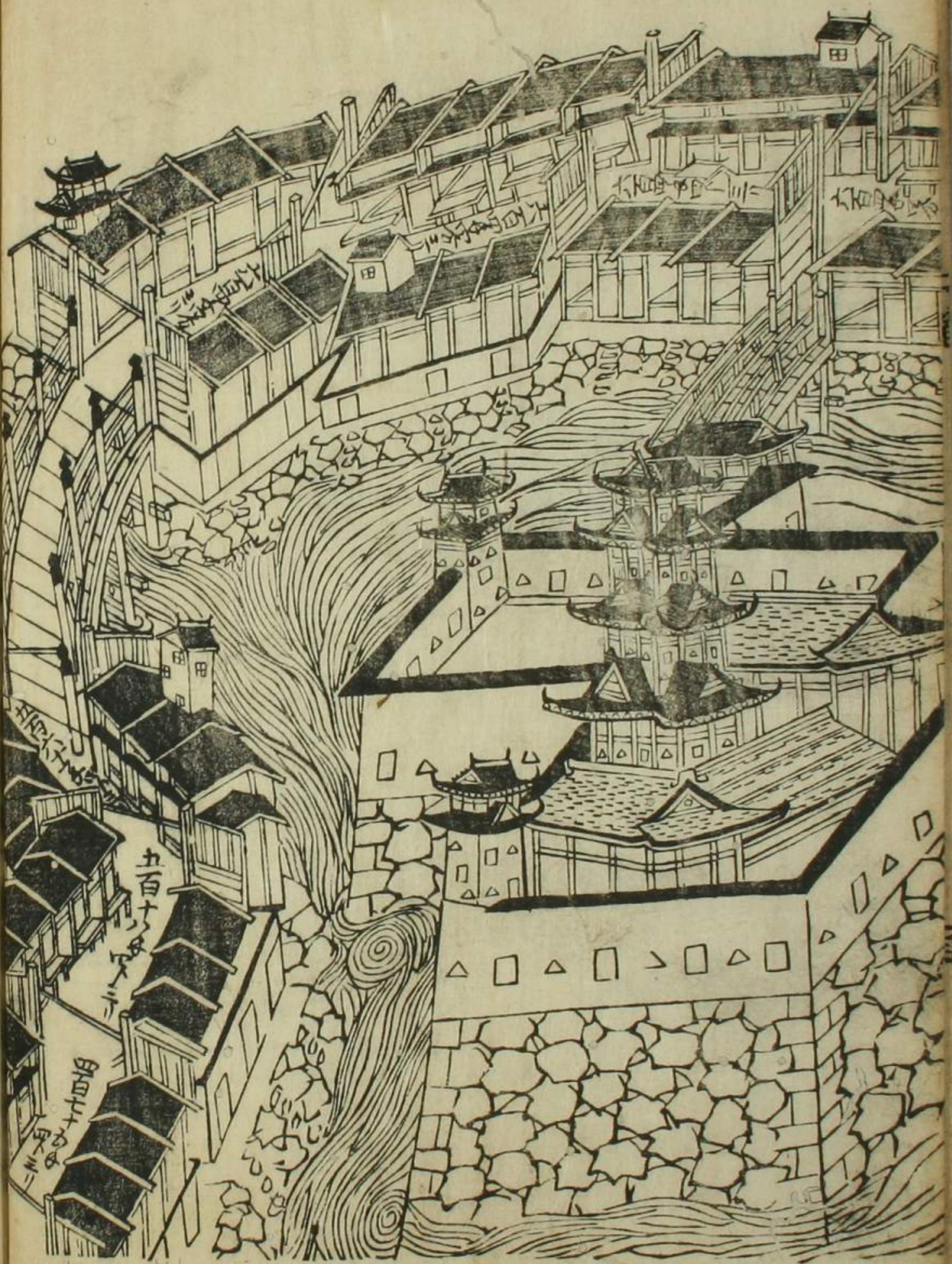
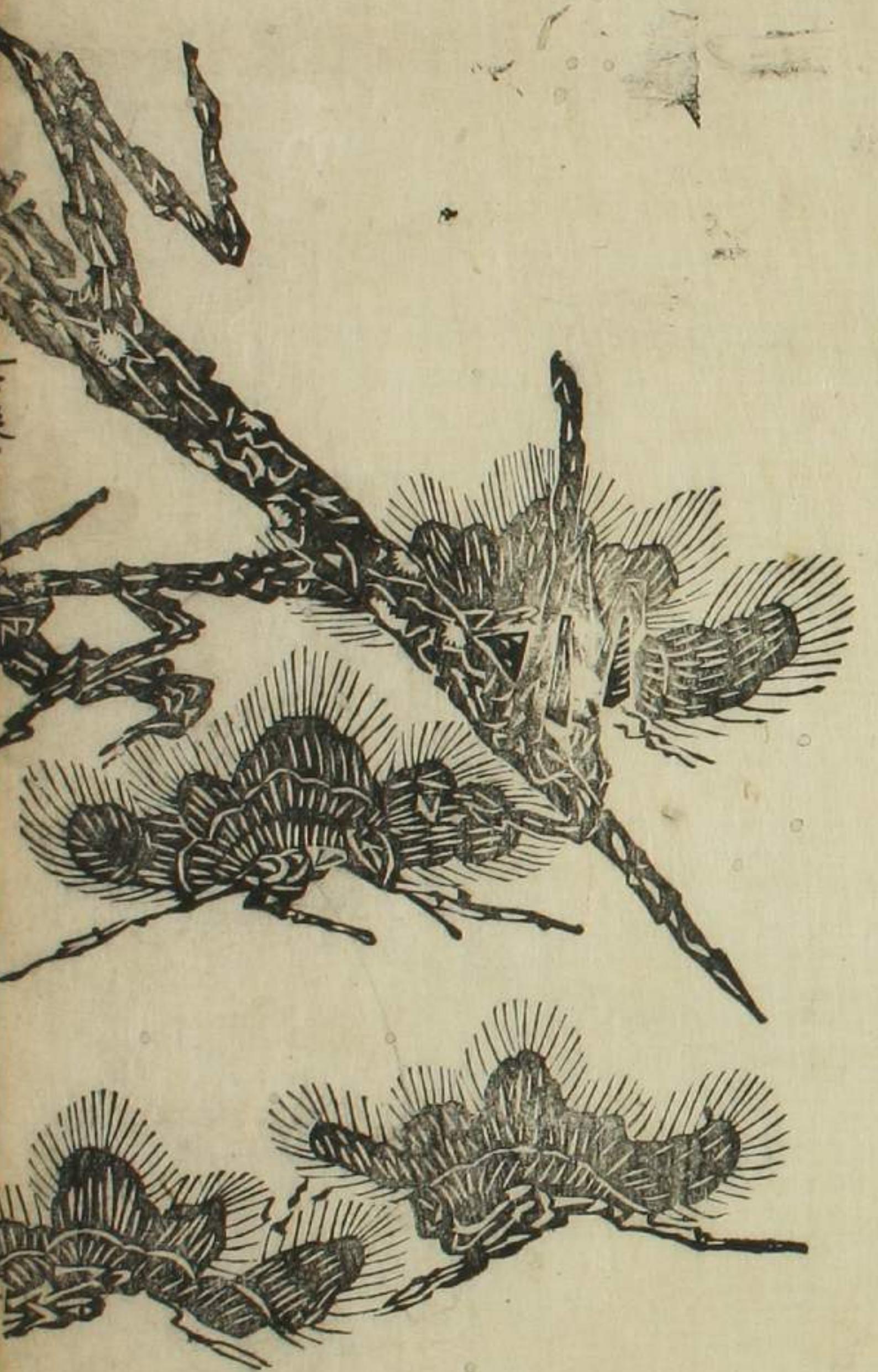
三井

「二ツよおせ一隻目入うりげ内七隻目八箇中
うりよ子時あらうせあ正の町へ本方に下す
り下りをとく一町て銀一枚アヒドリテキ
ヤドリヨリナリナシト商と三町とあり时ふ
中の町うちもうあれアヒドリテキナシ



大西

木のうらさとくわかにじてけりま





法。よのまくらを四角。よもりて
又すとととみとやりて下れま
小石とりよりじてほりとて
かいたすしろをひだり。あひて
ゑるべしと。うふよりあの称
まそけんさとうとうちてみゆ
すをこわす。飛だけとニアシム
ゆく。おのまくらをすらまとむ



中五

叫ばれぬ事

一卷

三



ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ

ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ
ハシマリ



もういゝ人のだらでりか
とくもすてこれうちとを
うふかくあふかくやく

○をとて二町せはすと方どり

一卷

四

はよろすあつた
とまへてひふらとてひまくひへ
みち時よかひてハリよるゆ時よ
三と小二分四りとまへて
ひまくひのたすたまへてみち時
もえと二分四りかへる付よ三百八万三
三三とまへて三三とひまくひの
付ねよ六五とひまくひ二百八万三千一
七万三千と六千と三万八千町せ八万
三千一す七万とまへて

方廿六 痴すとさーの事

一西月よ福よみよ母ソトヨモトナリモシウモ
ややせよあひきよめよ福すミニ月よ
すもスモトナリキつうむかへよややとしホ
カナヒキムクモクモクル月よナリキ
ややわよもとまもひ月よナリキ
うむ月よ月のちうふりふぬくとよすけり
二百七十五万八千二百五十七万四千四百二千四百

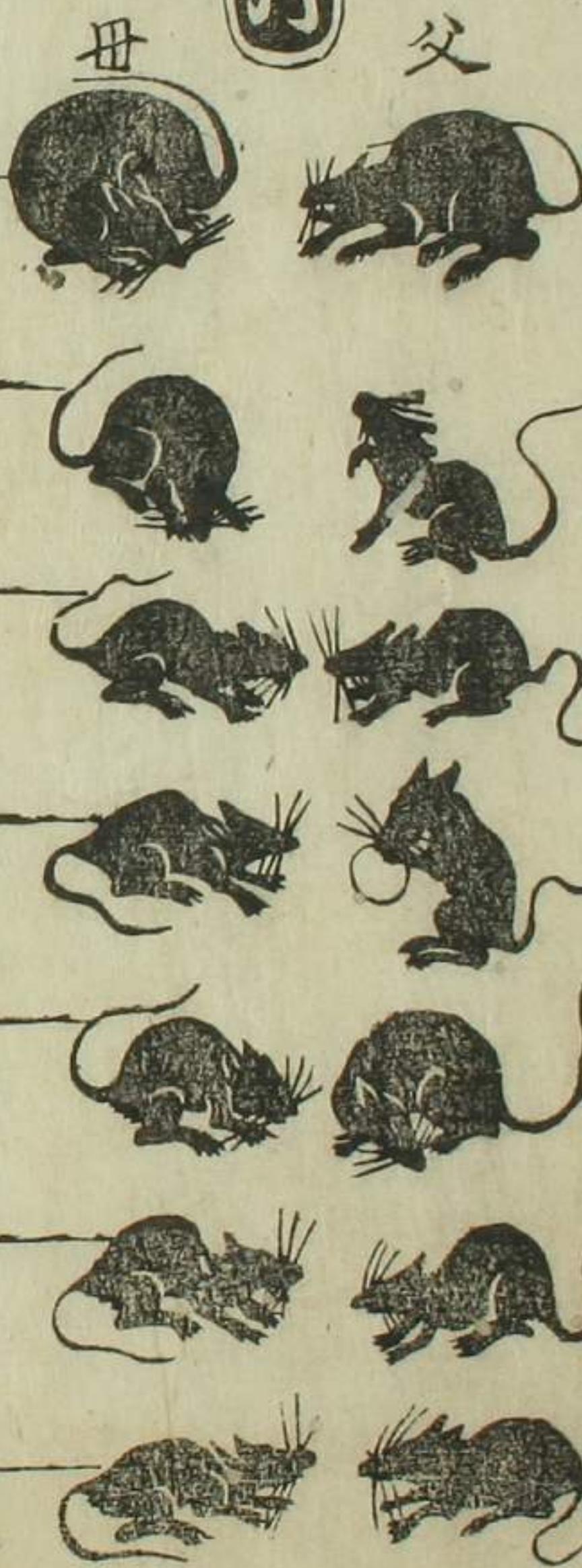
法よねすナリヒキよをナテヒシケル
右くねどとのニヤヒシケル

ノエリ	町辛五方天守番	二分	所空六方天守番
ノエリ	所世六方天守番	二分	所世六方天守番
ノエリ	町セキ定二分	二分	町五方天守番
ノエリ	町ナニ方二天守六分	二分	町ハ方二天守二分
ノエリ	町三アニ天九守六分	二分	町五方一瓦守二分
ノエリ	町五アニ天九守三分	二分	町五方一瓦守二分
ノエリ	町五十九守二分	二分	町五十九守二分
ノエリ	町五十九守二分	二分	町五十九守二分

右町つりいもじの「天のゆ」と「天のね」天比類て
はりくとりひきよりすうすーて山のよニ
本うとあり所とうふれとえうとソ海づりをう
あり又えきとよきのをさそりく(是傳也)

能すと子孫おとしけりれ事方

父



月	月	月	月
十二	十二	十二	十二
七十二	七十二	七十二	七十二
十二	十二	十二	十二
七十二	七十二	七十二	七十二
十二	十二	十二	十二
七十二	七十二	七十二	七十二
十二	十二	十二	十二
七十二	七十二	七十二	七十二
十二	十二	十二	十二
七十二	七十二	七十二	七十二
十二	十二	十二	十二

生子おとし千百十六ひまき
生やせ合あ千八百二

育	育	育	育
生子	二万三千八百十ニモ	生子	二万三千八百十ニモ
生子	合三万三千八百十ニモ	生子	合三万三千八百十ニモ
生子	廿万令千八百十ニモ	生子	廿万令千八百十ニモ
生子	合廿三万五千二百卒八	生子	合廿三万五千二百卒八
生子	五百二十万千七百卒八	生子	五百二十万千七百卒八
生子	合五百卒八百十令千七	生子	合五百卒八百十令千七
生子	九百八十万三千五百十ニモ	生子	九百八十万三千五百十ニモ
生子	合千百五十二万九千六百令ニモ	生子	合千百五十二万九千六百令ニモ
生子	六千九百十七万九千八百士足	生子	六千九百十七万九千八百士足
生子	合八千令七百七千二百高ニモ	生子	合八千令七百七千二百高ニモ
生子	四千八百八千四百九万三千二百八十ニモ	生子	四千八百八千四百九万三千二百八十ニモ
生子	合五千六千四百九十五万令百卒八	生子	合五千六千四百九十五万令百卒八
生子	九千九百七十令二千九百八十一ニモ	生子	九千九百七十令二千九百八十一ニモ
生子	合九千九百七十令二千九百八十一ニモ	生子	合九千九百七十令二千九百八十一ニモ
生子	二千九百七百卒二万令九百十ニモ	生子	二千九百七百卒二万令九百十ニモ
生子	合二百九六億八千二百五十七万九千八百令ニモ	生子	合二百九六億八千二百五十七万九千八百令ニモ

一 稲すと二百七拾六俵八千一百五十七方ゆ千や百令ニ走
右しよりとて一日より走ゆ全ツシムヤタ人馬りて
一日より走うあれんといつせり

一 千三百八十石一千二百八十石二斗一合

一 右し稻をみ尾およひつき尾およひつきて海うと
わろとふ

○一里と半歩寄りて ○一町と半歩寄りて
○一万と半歩寄りて ○稻すとせを守りて
右し稻すとつくうさ

一 稲八万八千六百五十石里廿三町セ方ハ寸ミ

赤地七
レバド
まの事

一 セヒトマヒホヘ一モヒテモヨウモリ
セキシツツアサ

一 合五拾三万六千八百七千夷九百十丈セイトス

右シ目稻二万二千三百六千九百九丈セイトス

三 合五拾五万九千二百六千夷五百四丈セイトス

組五千六百
百引セイトス

一 畑一粒イシといふく一モヒテモヨウモリ
合五万三千六百石稻七万九百十二粒イシトス

但六十石稻入つたりしてうなれシカニあるとソロ

合八拾九石セイトスセイトスセイトスセイトスセイトスセイトスセイトスセイトス

大豆一粒をひらく一もじにて一目うるりとめきと
ツの内穀イモは右ノキと曰ふが但不五千粒イモを
合千七百三十五セナリスソニヤ穀也

○芥子一粒をひらく一もじにて一目のつづり

合五億三千五百石七百九百十二粒イモと

但不一也百万粒イモのつづりにてうふれりあると古時
合石三十六石イモをモ穀二石八栗イモを
はよ一粒を八千のユのイモひそれがよしの右ノ守
幸イモに又不イモひそれすよをやくと云はばとあり
口傳イモあり一石イモが百万粒イモへとよて一方イモが粒イモでうふれ

一寸ゆ方イモ六万ゆ千粒イモへとよて一寸ゆ方イモの内亨室

ありゆくも充ゆ千と六千二千より一寸ゆ方イモ

ゆ百萬粒イモへとモイモく

○芥子一粒をひらく一もじにて一目のつづり

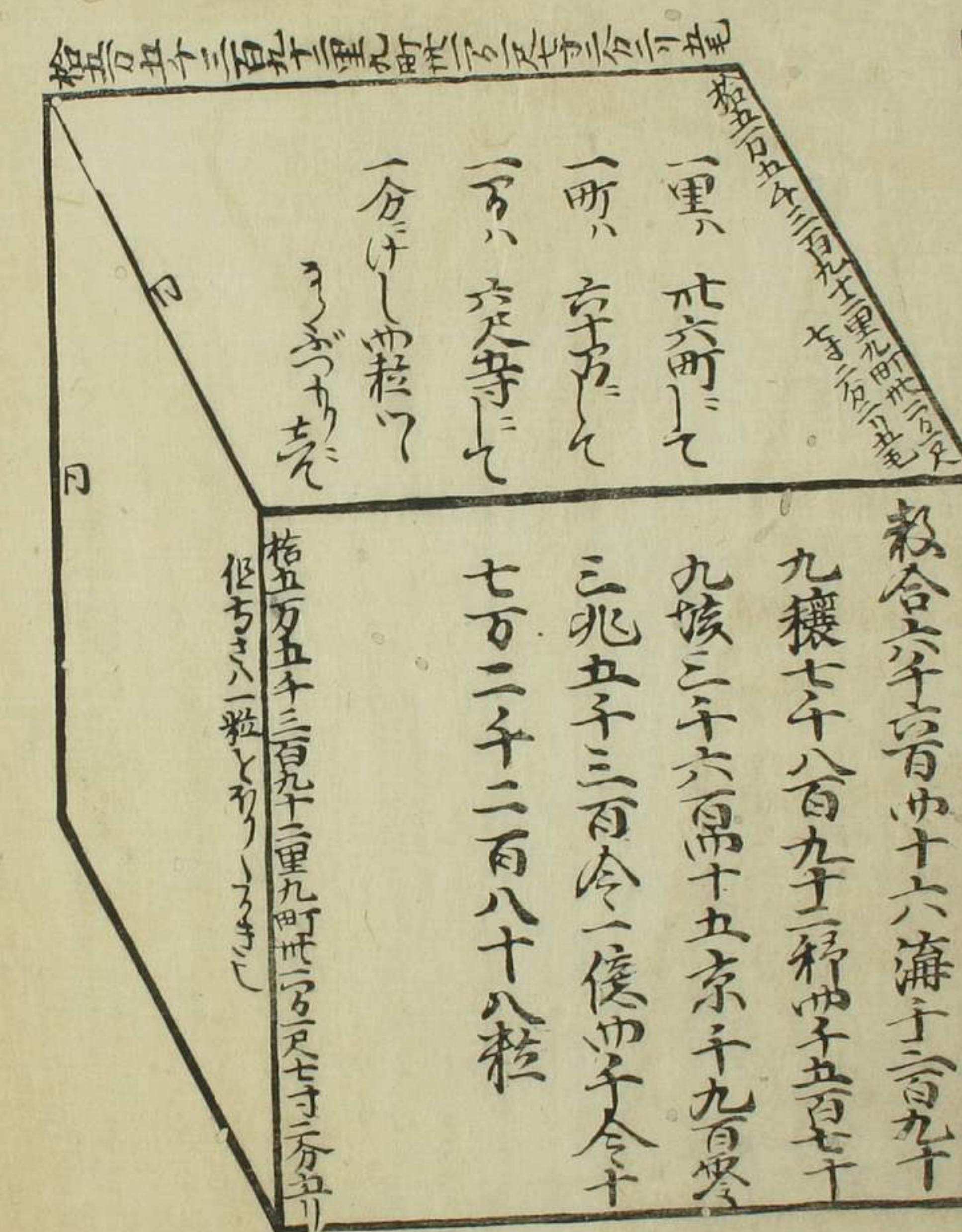
合五百六十二石イモをモ百萬石イモを合五百石イモを

右ノキと同用立イモして

モ五百六十二石イモをモ五百石イモを合五百石イモを

よどももさも右ノキと同用立イモして

一 菩子一粒とひよく一石いりて百廿自のうちれ教開



右のあまうを開立はりて 他あまうより右の三程うひあま

十九里三町六丈六尺二寸ニ分ウ方うり

右内余り四千五尺四寸ニ分ニリ五毛 四方

右の余り八尺七分ニリ五毛 四方

右の余り七分ニリ五毛 四方

右の余り三分四分を け余り一石七リ五毛 四方

右の余り七リ五毛四分を け余り七分五粒あまうし

一 右菩子一粒百廿のうちひよく一石いのうと百里
やかたますうそつづいてやかた

三億七千五百セ二万六千八百令ニ五度柔六度空穀三度空

方北八 日中の國づく

男西殺カノ

男殺ハ○合格九倍九万九千八百廿八人ととツ

但は倍ハ小余の倍ドテ十方を倍トシト
スルシ

女殺ハ○合二十九倍九千八百廿八人ととツ

○男女合倍八倍九万九千八百廿八人と

右一ノ一日ニ女太タチニシテ一日ニ男ナリニシテ

○二万四千零九千ノ名ニ半ナリ

又一年ニ万ニ半ナリニシテ三百五十日ニハ

○八百卒七万二千三百卒六千斗六卒也

を人殺や方ニ居リ用ニラフナリニシテソ所ナリ

格町八万六尺四寸一分三厘四分ニ長カトツ

は一坪ニ十二人アリ兵つりドテ四千倍九万九千六百八十
八人と十二人ドモこれより半万三千百歩兵也モと開平て
此の六百八十人六十六人と云ひシテ六十六人也と
此の六百八十人六十六人を守る者と云ふもと六十万アリト
十町八万六尺四寸三分ニリヤ方ニシテ

又ソ右ノ男女の殺と方女の倍ドテ万万と倍と云ハバ
ウナリヤ方ニ長カトツ

右ノ倍ヒシテ改セカラズナムニ被ヒシテナキ

赤水

ナガノのま

九百卒九百九十九と一よりす
九百卒九百九十九と一よりす

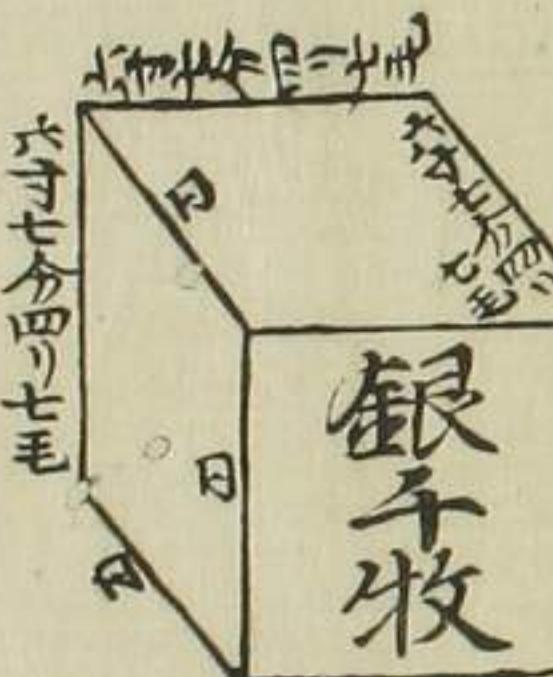
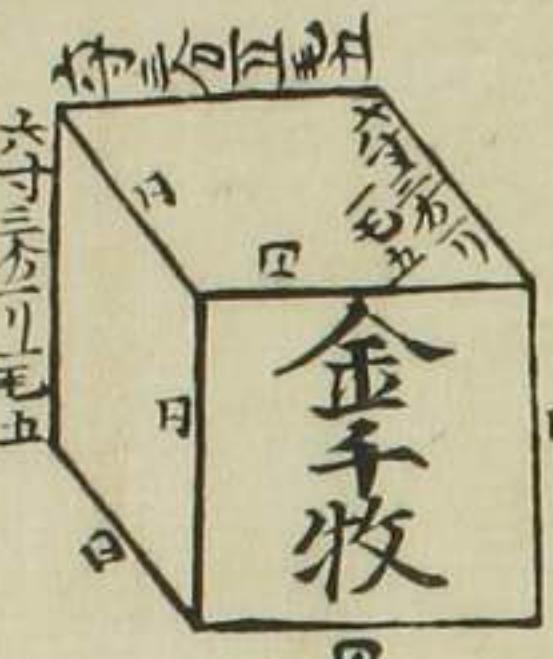
ナガノ

合九億九千七百令令二千九百九十九と一より

はト九百卒九百九十九と一よりす
八千令令一ことよしもよ支者卒九九九と一よりす
四卒九百九十九と一よりす
けえあるせてうふりくらせり

合九千七百卒九百九十九と一よりす

赤水 金銀千枚と銀玉づりの年



坪敷二百卒十一坪ゆ分二刃毛五糸七忽一、銀モと又用立
はきよりてのとく付ニ守三刃一刃毛五糸七忽一
〇法よ銀千枚の重ウ十三貫目と二小と百貫目で
わリ二寸四方の坪三百七坪一分アリニ毛ハ象五忽七
一トメニルと開立けひてヨリハ六寸七分アリセモ
トモナリ

第十一
きぬ一ノとそ北す

七里十町並五万ヶ足三寺
内ぬきのと二里並町並五万ヶ足寺

けよびその教千首もちゆてそ天火穴をかひよ
てひ三丈六寸あつこしよ千首どくれの穴半
八尺とみ毛と空へ守みてはれい九千三百零空
みれい九千五百九百半九百半九百半九百半
毛と毛と空へ守みてはれい九千三百零空
○又ぬきのと二里並町並五万ヶ足寺
一分よへまちうつあつさうて一丈守六分と
一分よへまちうつあつさうて一丈守六分と

八百半とみれい一丈二尺め寸八分よれよ三丈三丈
守とみれい千百半と三丈守とみれい八尺と六尺
五寸とてこれい六千四百半十一万ヶ足三寺とみ毛と空
じてこれい百七町並一万ヶ足三寺とみえとれと六町て
已れの二里並五町並五万ヶ足三寺とみりへ

九つよ入ぬのへんれせとやくよニ丈守とて三丈と
だぞ
合三里齋空三寺
ぬき
内ぬき三里齋空三寺

法よりとて一分よれよ三丈とみりへとさく人の
攻め右とせねと目前にし

方丈十二 あやめの花と葉

一とやけよあやめ一斗あるとまのますとまます
二とやけよあやめ二斗あるとまのますとまます
乃まますとまます三斗あるとまのますとまます
四とやけよあやめ四斗あるとまのますとまます
五とやけよあやめ五斗あるとまのますとまます
六とやけよあやめ六斗あるとまのますとまます
七とやけよあやめ七斗あるとまのますとまます
八とやけよあやめ八斗あるとまのますとまます

○オヤミニ 百疊けんとまます

一碁石あらひの年たあく付ばまの子とまます
はすうよりわるとよ付

先 サツひく付よびり やニツあきよ
又 ユツひく付よびるよ二つあきよ
又 ニツひく付よびりよ二つあきよ
ちうとやめそじふまとよう

○ハナ六いあるとよ

はよせつつの付よ一ツと十五のさん更入付と要文
ユツのよと一ツせーと入て毛スニツの時の
よと一ツとすつとのさん更入て百六子と入て二口
合百六子一と付百とある付バ百疊けんと
のうハナ六いあるとよ

オサナヤ 業師 もんとふき

おはせ方よりて一方面から
あはせ方よりて一方のハツヒがまき
三方からしてハツヒがまき
あわせたせやうとまきをす
まみりあはせ方よりて

ハハあく

けよよアラキアツヒと用ひてすあとまき
は外に又ほざかるせんせんとあくじくまき
とくまきナニあくじくと百八あくじく

分厚五

ちもあらみうそ四人ひときとて
のりあまするせんじゆうのじゆ
○ひくまきよじよじよじよじよじよじよ
○一マキのりのりのりのりのりのりのり
○アキナリのりのりのりのりのりのりのり
一スハモニツモのりてきくべ
一スハモニツモのりてきくべ
一スハモニツモのりてきくべ
一スハモニツモのりてきくべ
一スハモニツモのりてきくべ
一スハモニツモのりてきくべ



はよきみうせとくさあきあれもむま
三じきよみうせみうせとくくれにこたの
ナハアふうせはナハアとひとうす
アノモモヨリモ一ノのうんよ雪よまよ
あらうわせとけりやまとむまめす
三じきよみうせヨレヒアマヤヨウアムヘト
一里やめしにてのりくへとせ
カのとがせミアラとシトとるニ
うづくと二ノアツアラホムヨの事
○一ノアツアラホムヨ

○一ノアツアラホムヨ

一里ある

○一ノアツアラホムヨ

一ノアツアラホムヨ

○又三ノアツアラホムヨ

月、日、つまつまとソヌトナス

アラホムヨ



中四十六百七十九万四方と云

中四十六

開泰法

平数
千六百七十九万
一方八千九百九十二
千九百九十二
一方八千九百九十二

百九三万四方と云

百九三万

正川

五千五
百九十九

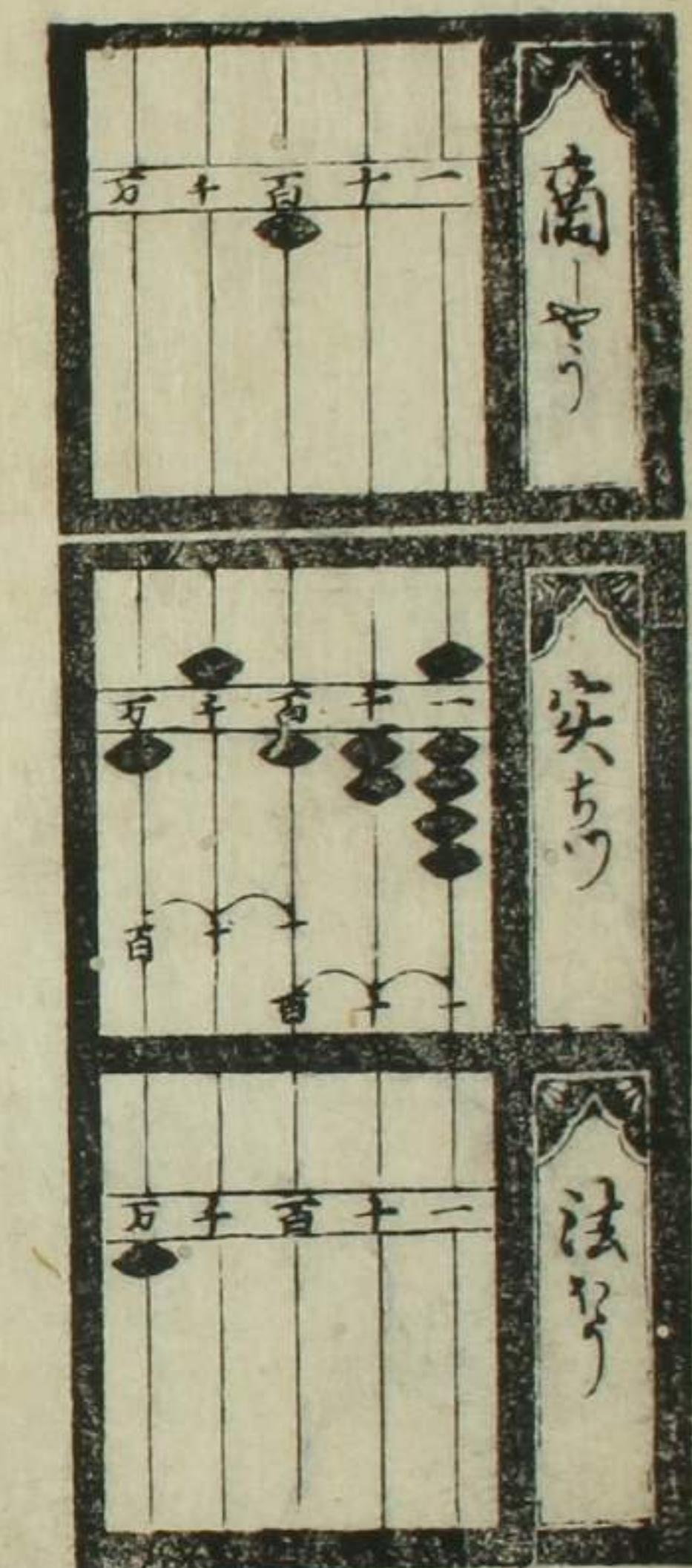
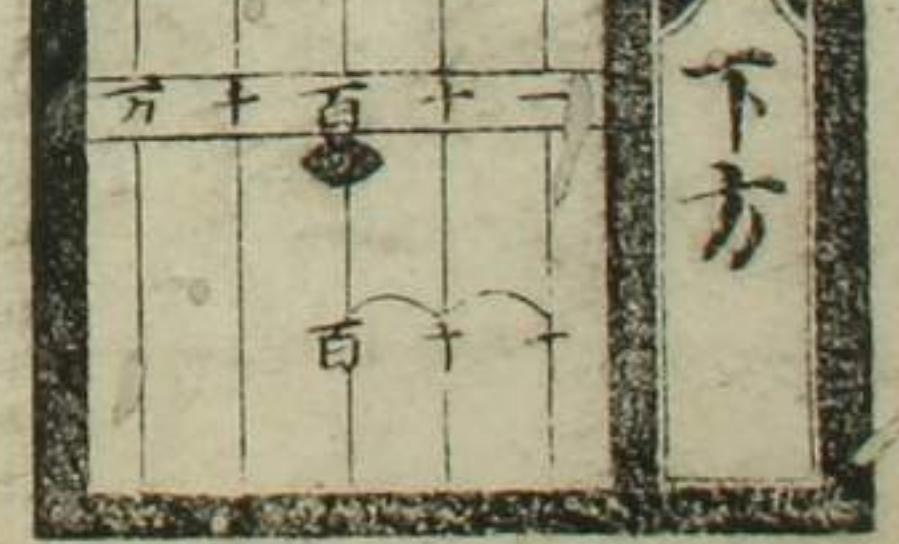
正川

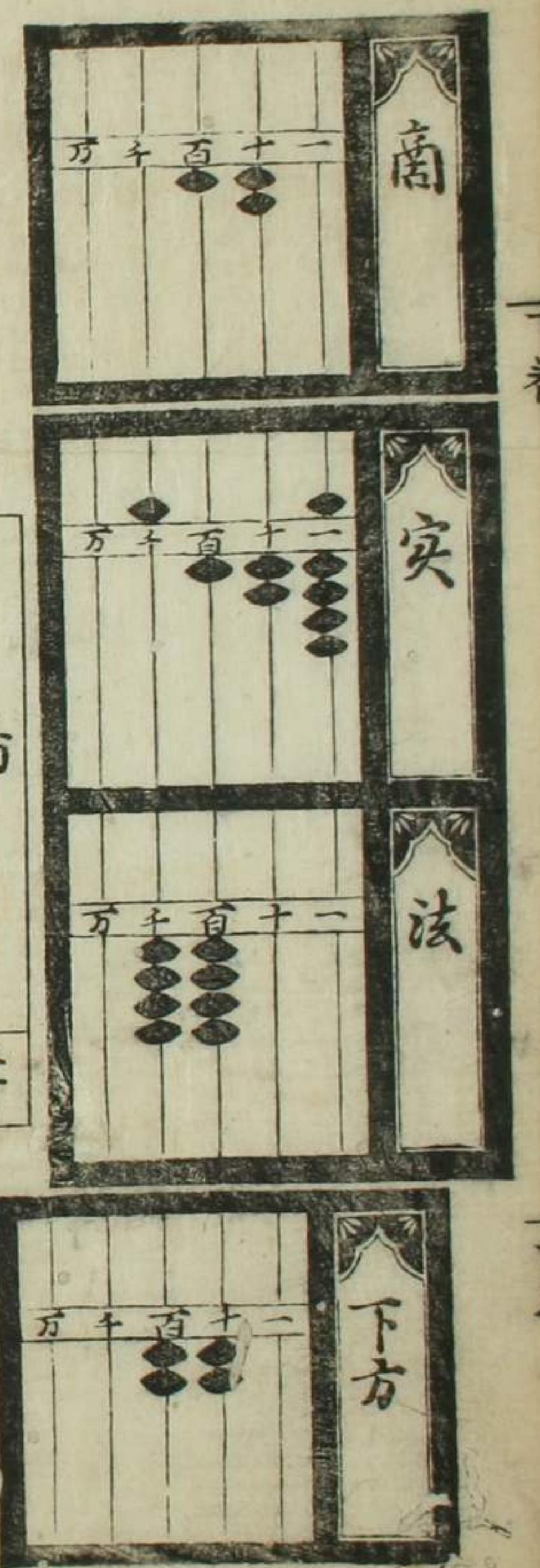
百九三万

はよソカ穿よ一万五千百丈五坪とをもてまろ
安うてぐるいとぞる三十百一十百とがくの
こくよすてありえう時まんうと百と
ひよのくとせうめいへ高よ百とをもと
はよりりか下方らて二十百とすてありて
下とをもてはらて下方の百乃う人のよ
とて高の百と下方の百とがぬよよりて一乃
き万坪とはよぢきてこれを安うてひくと
のうりて五千百七九坪あり

一万坪

百方





一百坪不

二千坪

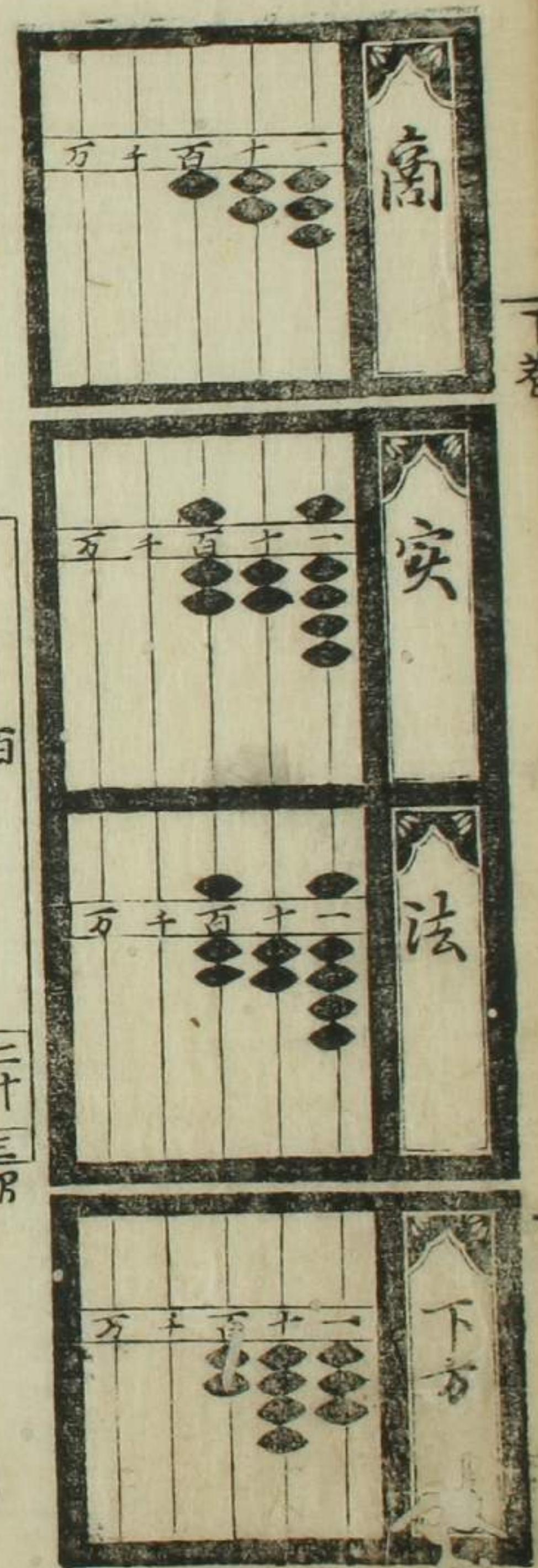
畠

百
十

はよつと商の百乃至二十ととまとめてさて
下方を一くらひやけて、百と一もいふ。一百と
きて、下よ二十ととく。は二十の商よ。ま立たつ
きりしてをくし。やうそほりて、下方の二百と
商乃せとよ。二二の四千とほりとまとめて
下方のすよ商のさとよ。二二の四百とほり
とまとめて、下を安じてり。うり

並て七百十九坪あり

一九



一万坪

		百
		三十
四百坪		
九坪		
三百六十坪	三	三
二千坪	十	十

積より商ニ一千乃至二千まで下はよひ
 やりて二十と一を以てやすとすて下に
 こととさせしハ商ニやくはとすていま
 うふかうして五とやくとすはう居て
 下方乃二百よ商のことを三の百也とは
 とすて下方れこよ商のことをよしこの
 九坪とけよとせ百二十九坪と成しもと
 実ひてリもへけり

百二十三万ゆ方よめし

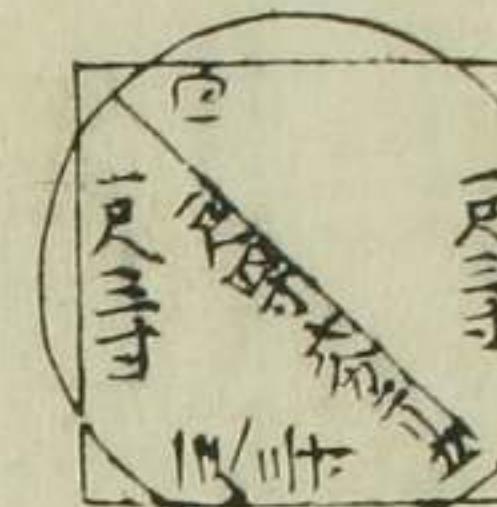
オウナセ 尖平四辺の詩

一尺三寸六分方をあとまくらす
さへカへうふれりうらをと

三尺三寸

四尺三寸

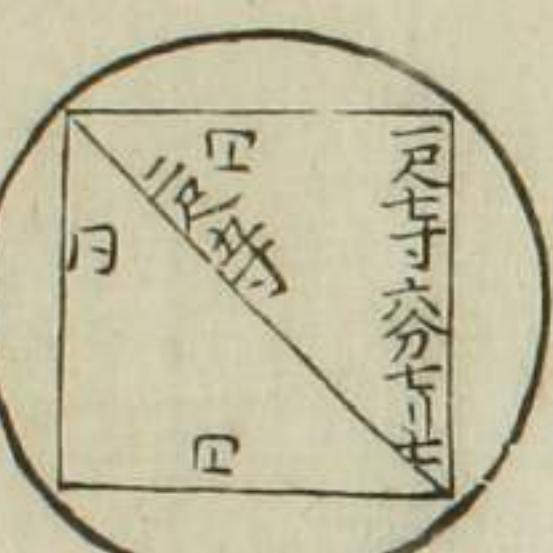
カヘ一尺六寸六分二厘毛とまし



はよ右へニヒトとまけてこれよ
一尺三寸とかくルヘヤーカヘ
一尺六寸六分ニリ毛とまし
又一寸六分の呼七寸一呼を専用平四辺とめ
ヤーカヘふりくみうちととせり

ヤーカヘ二尺アラモ

法よ七百十一呼と右ざまとて四法せかとりつて
ヨルハ九百呼よなもと開平はてヨルミタ
一ヤーカヘ二尺をまつ木や角よううせきよ
う寸六分くみうちとソアサキ



角のやうて一尺六寸六分セリ毛と

け小石ニベ五寸とまで左ニヤーカヘとましと
毛と毛と左ニベ五寸ヒコヘ

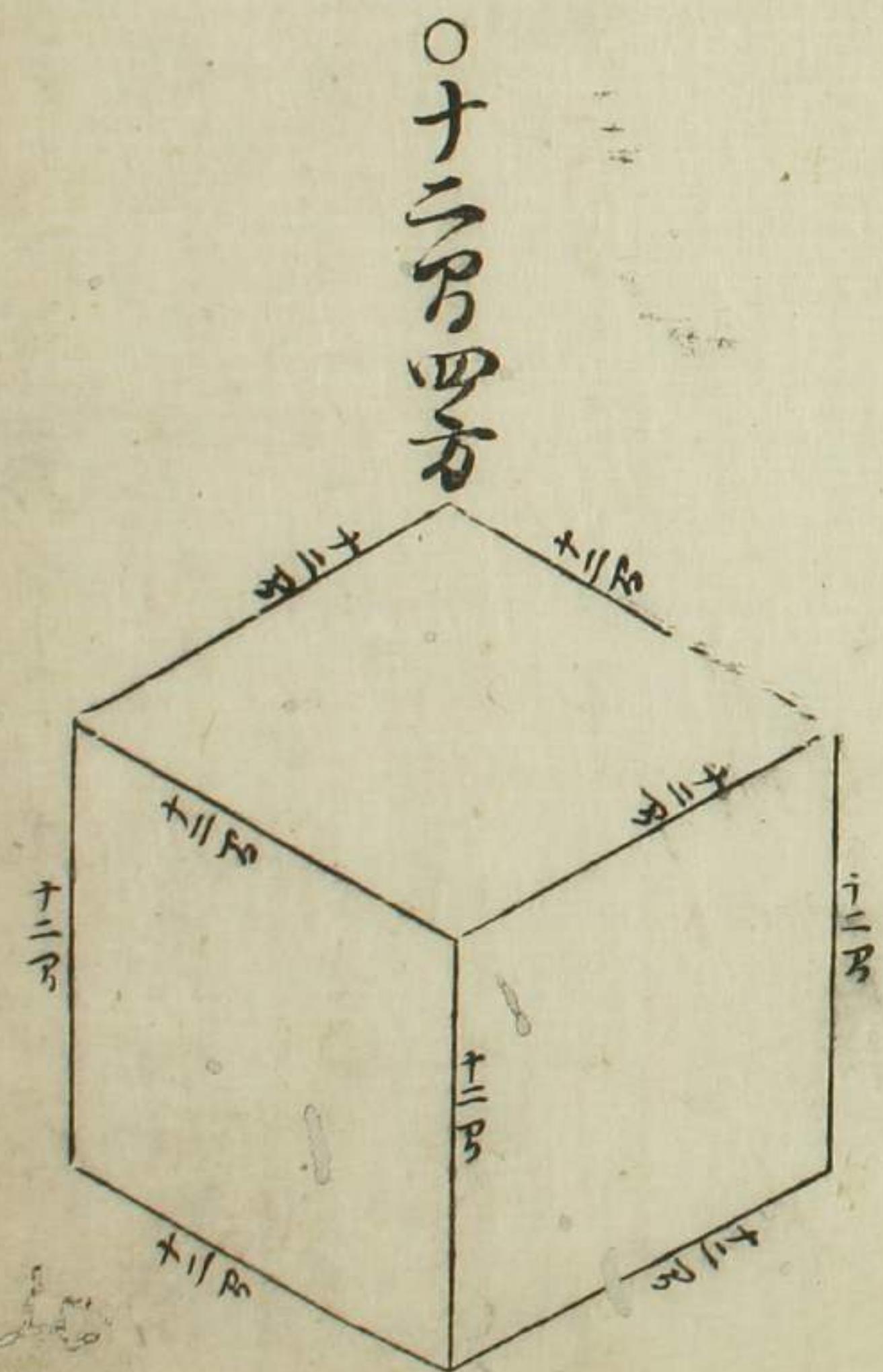
下巻

五

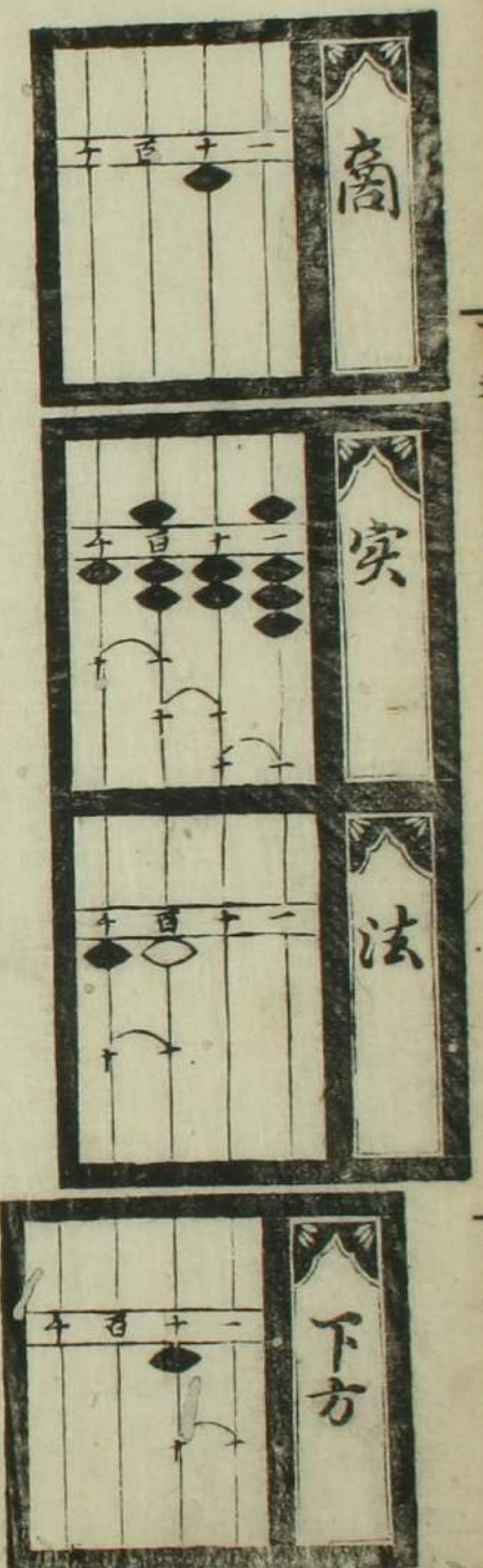
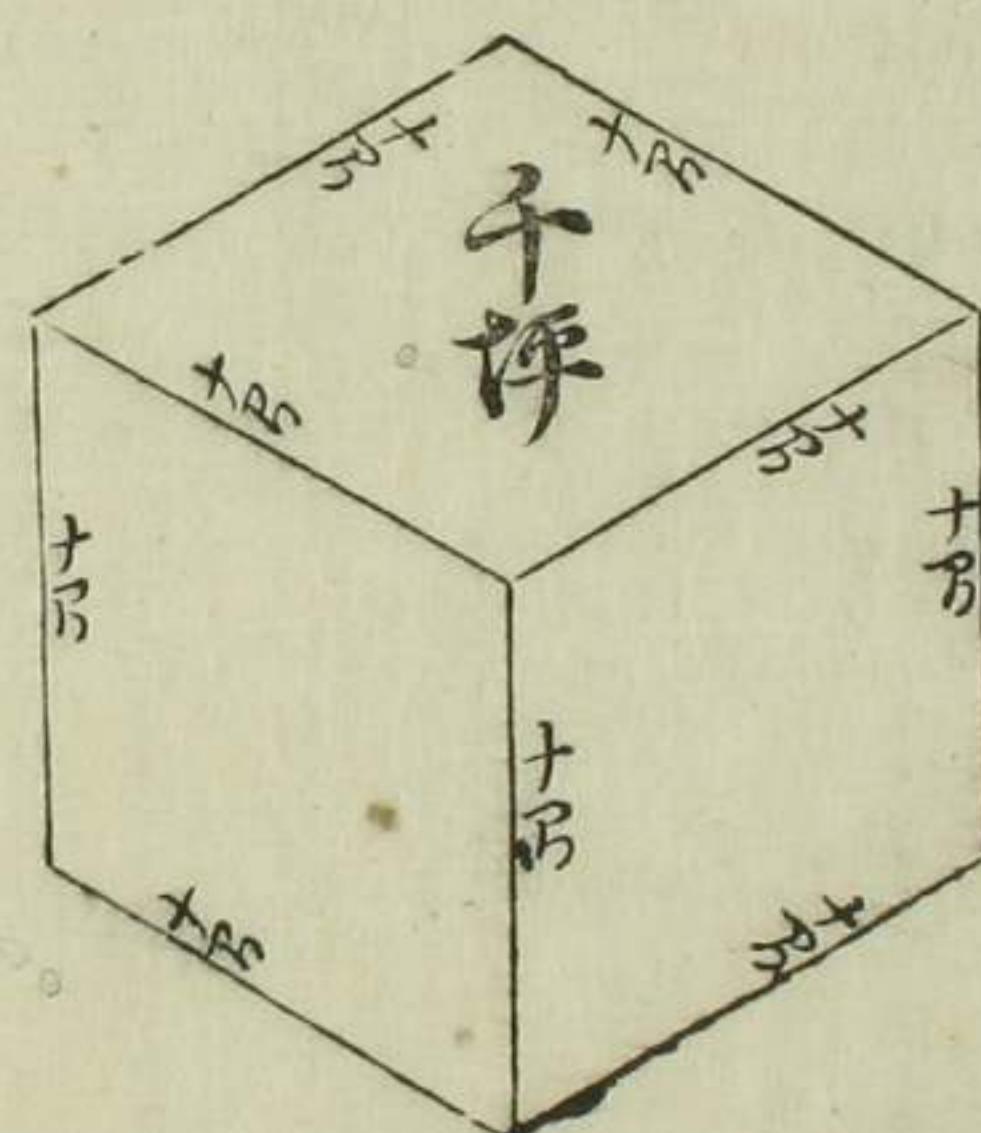
一四ヤーカー二五寸あるまろ木角うす肉
えすんぐをとしむちくのすあつ肉より
うせうひてアリ二五セ寸分ナリ毛
あ毛とまきうちあとのうぶよにれり
角のやりてあるときアヘー

才四十八
開立法

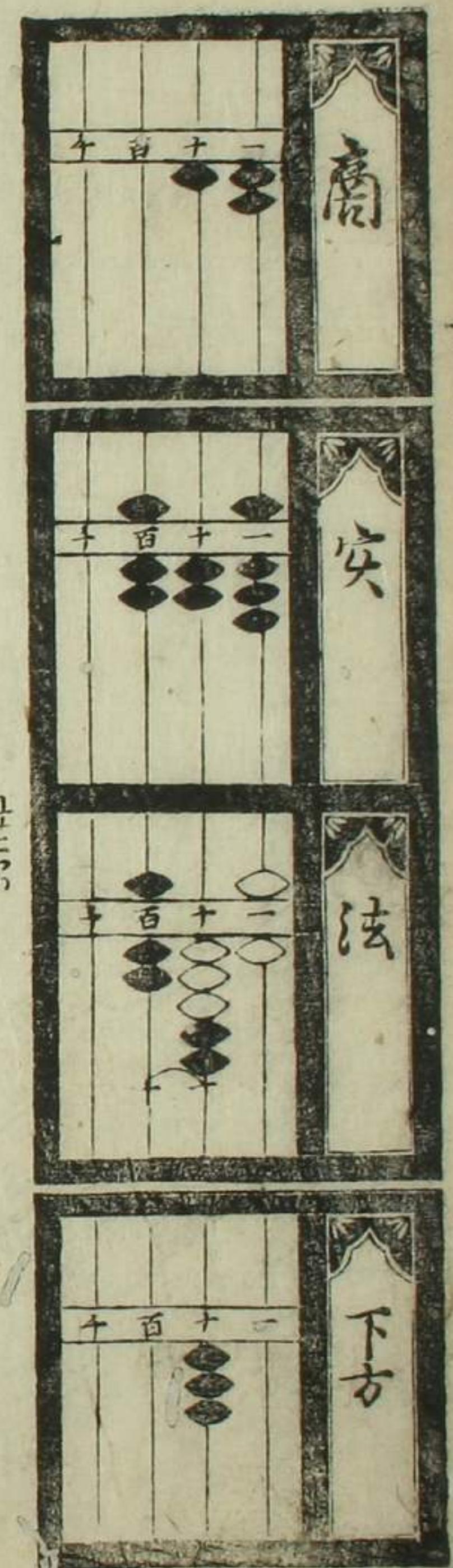
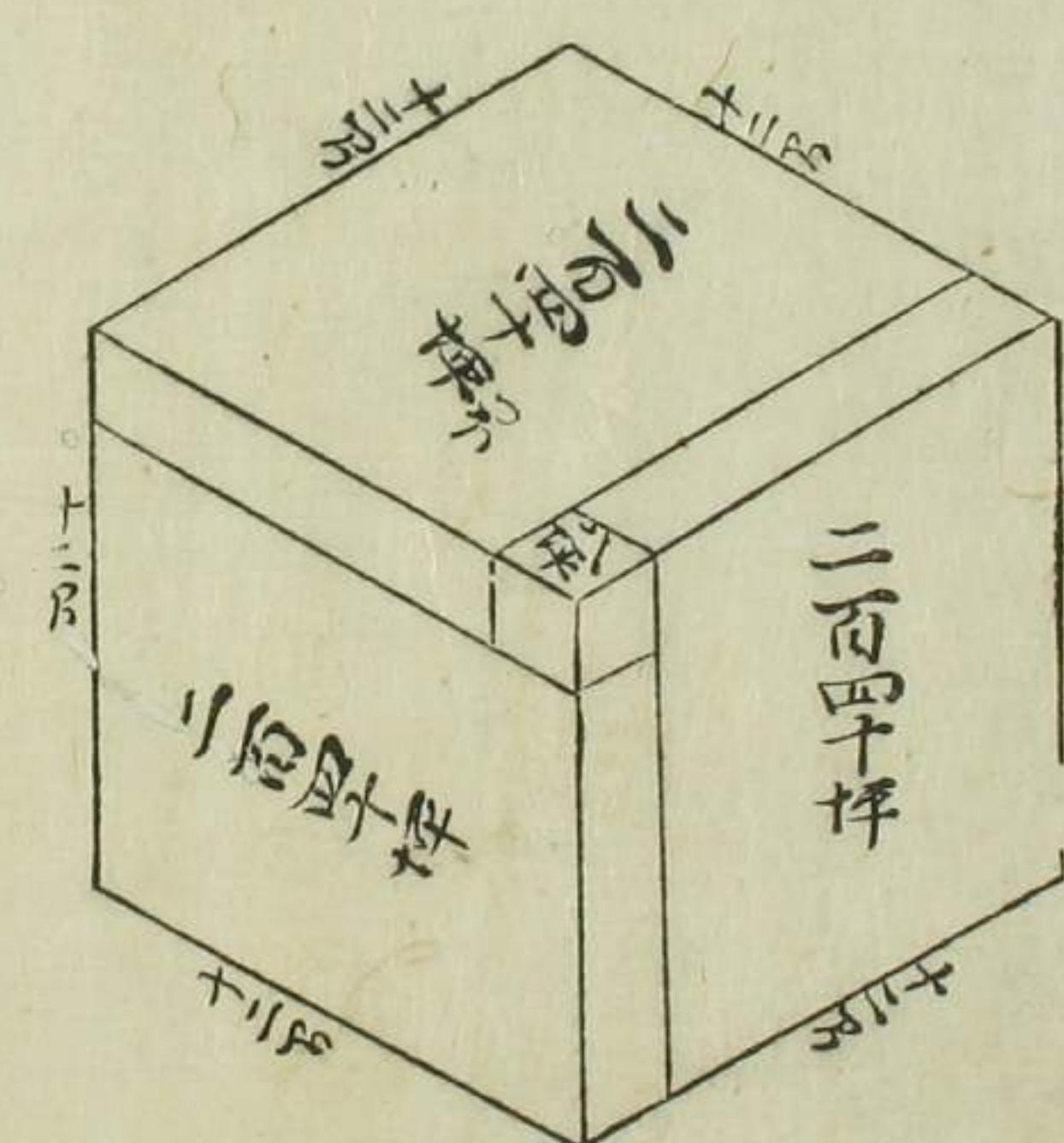
解説子七有夫呼ナリこれらと、そぞ
たうともあく、あけよみて、ゆかと
さうぬよ

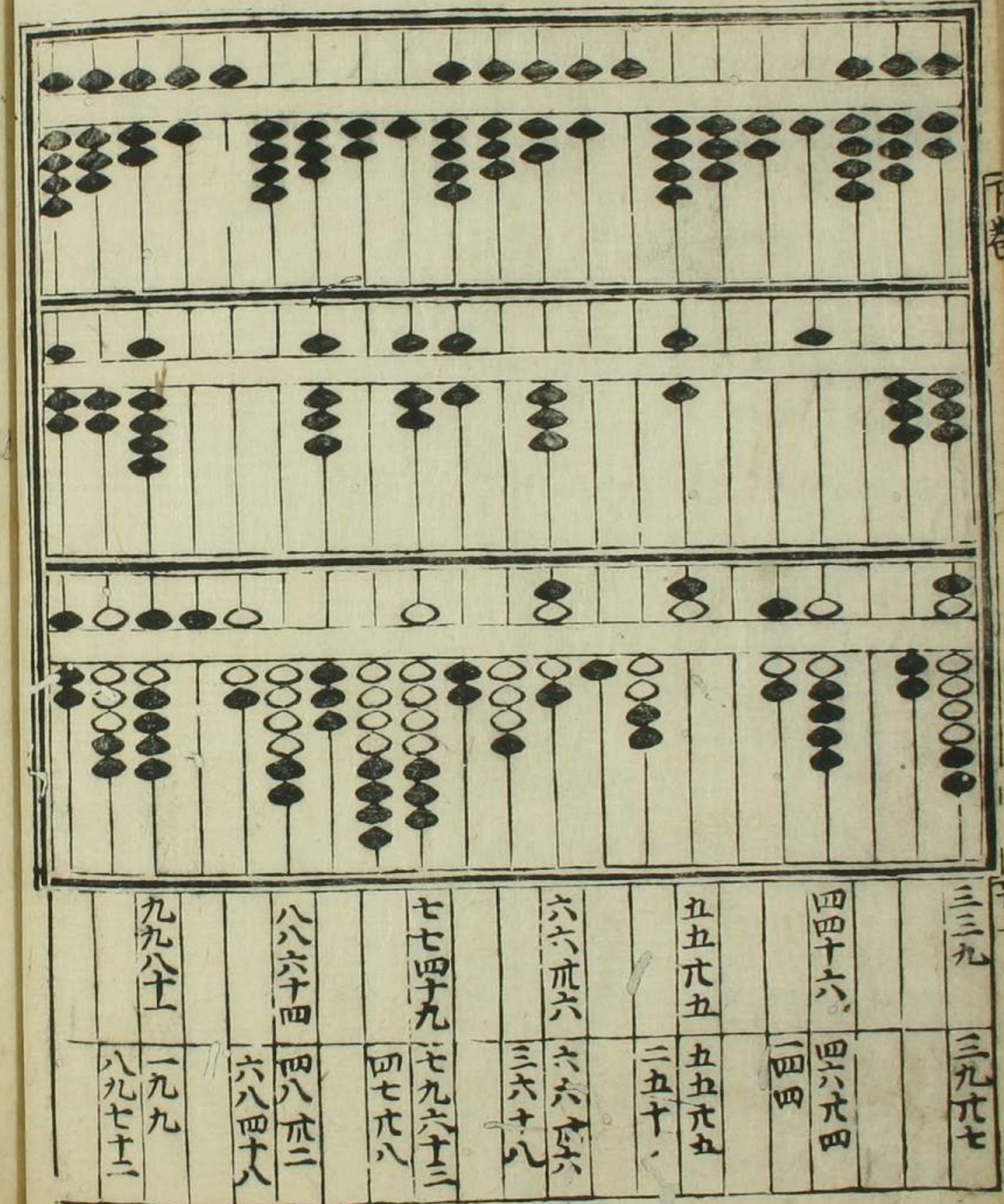
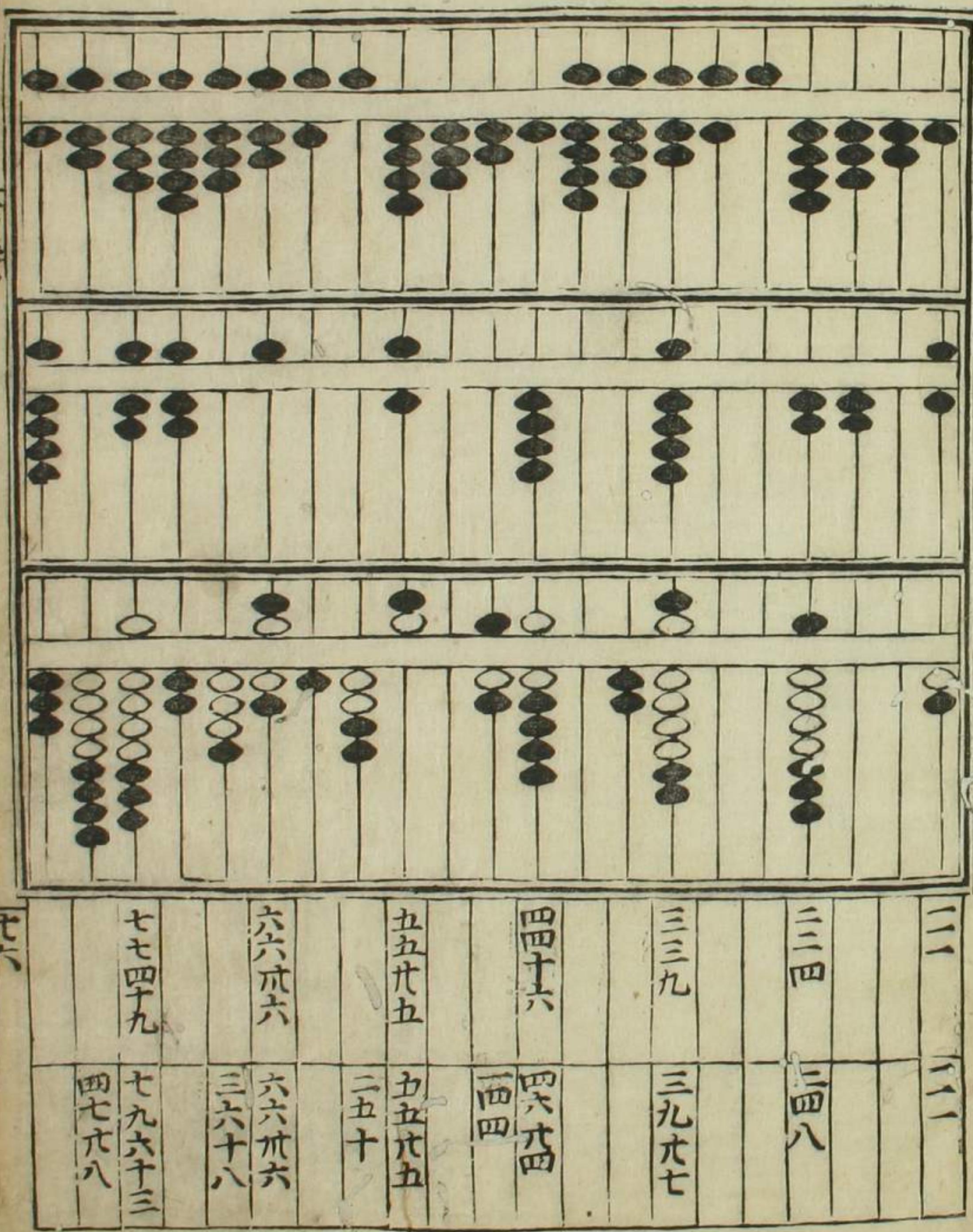


はよひふ。空よ千石。大坪ととくも。まつ穿そ
くいをやる。一十一。十一。十とあらひ。とくよ
うすへてありみづ。時よ。十とソ。十のく。こ
まつ。商よ。ナト。きやん。又下方よ。二十一。あわ
すと並て。これの商の十よ。こうして並うり
さとほよ。と下方の十よ。商の十をよ。ふこ
一の百よ。又はの百より。一十とよ。て
わたり。ほの百よ。商の十をよ。一の千石と
ある。それと安よ。そりも。じ
○さて。ち。百せハ。坪。あり



商十の次二立松下方ナミニ倍ボトモ一位ナケテ
又ほゆて下方の元ニ商のナミニ三元ト法モニ元
乃次居て下方の元商八ミトトフニミの六トモニハノ元
五十九とかつあわのうりト流ル元商の二ノクミト元
ヨリ二千と九百六十トナリ一千トゼカリソトハ
モニミのナミトモテミナロ六千トナリ一千トゼカリソトハ
モニナミ商八ミトヨリニ六百八十ト重付セ音ナラニモモ
安ナリシムヒ八坪モニムヒム角引まつ法モト
商ニトヨリナリトモニ六百八十ト重付セ音ナラニモモ
ニミアレトモナキモテ又ニナミ商ニト無カクル者
ニ而ハ坪トモウルモノモ安ヒシキ拂ラ





三
此
新編塵劫記 吉田光由開板屢

為算法指南者如合符節後生

勸旃勿輕忽

于時

寬永第

曆龍集龜梧

覃闕

仲禪

好日辰

西嶺舜岳

野釋

玄光

以跋

算數の代よりや誠よりとてかゝきは
は道うりと小を伏せじをかゝりてせうる
ありゆすく。ああふ我まへよ成師よ
つまく泄思の書をうけて是を勝飾と頬袖
とて其一二をうりて其仰よきけんかの
りが本あつめ十八をとりてその一二三を
上中下とてよしやうりうる人の初びとて
ほぐすりちふとえ續書をすゞしてせわろ
人見とうづれりとて利のなむせ
あきよとひやとのよじとせざる

あやまつゝ足ちやう而せんしてこれい我書の
むきしきへもきりよし角放よひま
あうと朱と墨とじききもじよすれ
たまみと失あうとんにあらん人は
師よがりめめてあしたまへるのほ
きよせ外十五乃をあう、まくせよめ
人馬モは初門うちの室の門テア
入らうて以ふかさんや

寛永八年六月日

吉田七義

宝函

宝松山房

追間也

書氣節

